

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-4828

(43) 公開日 平成10年(1998) 1月13日

(51) IntCl.⁶

A 01 K 87/00

識別記号

6 4 0

庁内整理番号

F I

A 01 K 87/00

技術表示箇所

6 4 0 D

審査請求 未請求 請求項の数5 書面 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平8-195157

(22) 出願日 平成8年(1996) 6月20日

(71) 出願人 000237385

富士工業株式会社

静岡県静岡市南町19番3号

(72) 発明者 大村 隆一

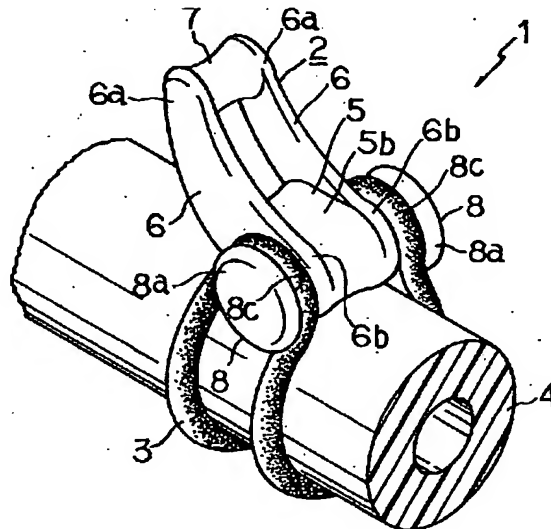
静岡県静岡市南町19番3号

(54) 【発明の名称】 釣り用掛け具

(57) 【要約】

【課題】 釣竿への着脱を極めて容易に行うことができると共に、機能を大幅に拡大することができる釣り用掛け具を提供する。

【解決手段】 竿4の外表面上に前後方向へ回動自在に着座される本体2と、弾性バンド3とから成り、本体2は、少なくとも前後2つの接触位置が竿4に接する着座部5と、該着座部5から突出した腕6と、腕6の先端部に位置した掛け部7と、腕6の基端部6bの左右両脇に位置したバンド掛部8とを備え、弾性バンド3を竿4に反本体2側から巻きつけて両端部を上記バンド掛部8に各別に掛けることで本体2を竿4に弾発的に圧着し、上記2つの接触位置が竿4に着座し且つ掛け部7が竿4から離間したところに位置した起立姿勢と、後側の接触位置及び掛け部7が竿4に着座した倒伏姿勢とを選択的に変更することができるようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 掛け部及び左右2つのバンド掛部を有して釣竿の外表面上に着座される本体と、釣竿に反本体側から巻きつけて両端部を上記バンド掛部に各別に掛けることで本体を釣竿に弾発的に圧着する弾性バンドとを備えたことを特徴とする釣り用掛け具。

【請求項2】 本体が、少なくとも前後2つの接触位置が竿に接する着座部と該着座部から突出した腕とを備え、該腕の先端部に掛け部が設けられており、竿上で、上記2つの接触位置が竿に着座し掛け部が竿から離間したところに位置した起立姿勢と、後側の接触位置及び掛け部が竿に接触した倒伏姿勢とを選択的に変更することができるようにしたことを特徴とする請求項1に記載の釣り用掛け具。

【請求項3】 本体のバンド掛部が溝を有し、該溝に弾性バンドが略隙間無く収まるようにしたことを特徴とする請求項1又は2に記載の釣り用掛け具。

【請求項4】 本体のバンド掛部とその余の部分とを別体に形成し、これらバンド掛部とその余の部分とを軸により回動自在に結合したことを特徴とする請求項2又は3に記載の釣り用掛け具。

【請求項5】 弾性バンドがオリングであることを特徴とする請求項1又は2又は3又は4に記載の釣り用掛け具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、釣り用掛け具に関する。詳しくは、釣竿に装着して使用する掛け具、主として、針やラインを掛けておく部材としての釣り用掛け具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 今日の釣竿には様々な部品が装着され、その一つに、針掛けに代表される各種の掛け具があり、この種の掛け具は、通常、釣竿の外表面上に着座した状態で装着される。従来の針掛けとしては、例えば、実開昭58-100576号公報、実開平3-67560号公報、実開平3-67561号公報等があり、仕掛け巻きとしては実開昭61-193776号公報等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来の釣り用掛け具には、次のような問題があった。その一つは、釣竿への装着手段にある。即ち、従来の針掛け等の多くは釣竿に装着するのに、取付部を釣竿と共に糸で縛るか、又は、竿に外嵌めしたゴム輪に掛け部を支持させるといった手段が取られていたので、装着に多くの手間がかかる上に、破損した場合の交換が極めて面倒なものであった。このため、一般の釣り人が任意に装着したり取り外したりすることは殆ど不可能になっていた。

【0004】 この点、実開昭61-193776号に見られる仕掛け巻きにあっては、周方向における一部が欠

落した円環帯状の取付部を釣竿に外嵌めするようにしているため、着脱は容易である。しかしながら、このような装着手段は装着状態が不安定であるため、うっかりすると外れてしまうという別の問題を含んでいる。

【0005】 また、従来の掛け具の多くは釣竿に装着された状態が固定的になってしまうので、使用しないときは邪魔な突起物でしか無く、ややもするとラインが絡んでしまったり、不注意で破損させてしまう等のトラブルの原因になることがあった。

10 【0006】 更に、従来の掛け具は用途が限定され、あるいは使用の態様が限定されてしまうという問題があった。例えば、従来の針掛けの多くは、本体部に設けた孔や金属の線材から成るループに針を掛けるようになっていたため、その掛け方は上記孔やループに針先から通すという態様に特定されてしまうからである。従って、針にワームを付けたままの状態では針掛けを行うことが不可能である場合も生じ、また、針掛け以外には殆ど用途が無いという問題があった。

20 【0007】 本発明は上記した従来の問題点に着目してなされたものであり、比較的簡単な構造でありながら、釣竿に対する着脱を極めて容易に行うことができ、それでいて、釣竿への装着状態が安定に保持される釣り用掛け具を提供することを目的とする。

【0008】 また、本発明は、竿に装着したままの状態でも、姿勢を選択的に変更することができ、使用しないときは姿勢を選ぶことで糸絡みの恐れを小さくすることができると共に、用途や掛け方の態様を大幅に拡大することができる釣り用掛け具を提供することを目的とする。

30 【0009】 更に、本発明は、釣竿への装着手段を利用してラインの掛け止めを行うこともできるようにした釣り用掛け具を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】 前記目的を達成するために、請求項1に記載の釣り用掛け具は、掛け部及び左右2つのバンド掛部を有して釣竿の外表面上に着座される本体と、弾性バンドとを備え、該弾性バンドを釣竿に反本体側から巻きつけて両端部を上記バンド掛部に各別に掛けることで本体が釣竿に弾発的に圧着されるようにしたものである。

40 【0011】 請求項2に記載の釣り用掛け具は、請求項1の釣り用掛け具において、本体が、少なくとも前後2つの接触位置が竿に接する着座部と該着座部から突出した腕とを備え、該腕の先端部に掛け部が設けられており、竿上で、上記2つの接触位置が竿に着座し掛け部が竿から離間したところに位置した起立姿勢と、後側の接触位置及び掛け部が竿に接触した倒伏姿勢とを選択的に変更することができるようにしたものである。

50 【0012】 請求項3に記載の釣り用掛け具は、請求項1又は2の釣り用掛け具において、本体のバンド掛部が

溝を有し、該溝に弾性バンドが略隙間無く収まるようにしたものである。

【0013】請求項4に記載の釣り用掛け具は、請求項2又は3の釣り用掛け具において、本体のバンド掛部とその余の部分とを別体に形成し、これらバンド掛部とその余の部分とを軸により回動自在に結合したものである。

【0014】請求項5に記載の釣り用掛け具は、請求項1又は2又は3又は4の釣り用掛け具において、弾性バンドとしてリングを使用したものである。

【0015】

【発明の実施の形態】以下に、本発明釣り用掛け具の詳細を図面に示した各実施の形態に従って説明する。図1から図8は本発明釣り用掛け具の第1の実施の形態を示すものである。符号1は釣り用掛け具を示し、合成樹脂製の本体2と弾性バンド3とから成る。本体2は、竿4の外表面に前後方向、即ち、竿4の軸と平行な方向へ回動自在に着座される着座部5と、該着座部5の左右両脇から互いに平行に延びた平板状の2つの腕6と、該腕6の先端部6a間を連結した掛け部7と、腕6の基端部6bから互いに左右反対側へ突出した2つのバンド掛部8とが一体に形成されて成る。

【0016】着座部5は異形のドラム形、即ち、ドラム形をその軸と直交する方向へある程度長くしたような形状をしている。具体的には、左右方向から見た垂直断面が略小判型（トラック形）、即ち、長手方向両端部が半円形でその間の部分が矩形である形状を為すと共に水平断面が略ドラム形を為す。従って、着座部5の左右両側面を除く外表面は円弧状に窪んだ形状をしている。着座部5の外表面の上記形状は、着座部5が竿4の外表面に着座した状態を安定に保持するための形状である。従って、この円弧状の曲率を一概に規定することはできないが、例えば、標準的な太さを有する竿の元竿の外径程度にすれば、ある程度の範囲内での竿径の違いにも対応することができる。また、この着座部5の左右幅は上記元竿の外径の半分程度にすると良い。

【0017】腕6は、板厚方向から見て略円弧状を為すと共に長さの割には幅が広く、その幅は着座部5の脇に位置している基端部6bにおいて着座部5の厚さよりやや広く、先端部6aへ行くに従って狭くなっている。そして、腕6の基端部6bから先の部分は先端へ行くに従って着座部5の厚み方向へも変位する姿勢になっている。

【0018】掛け部7は略ドラム形の軸状をしている。即ち、掛け部7は横断面形状が円形を為す軸状を為すと共に、その径は中間部が一番小さく両端へ行くに従って大きくなるように形成されている。従って、掛け部7の外周面は円弧状を為し、その曲率は着座部5の外周面の前記曲率と略同じになっている。

【0019】バンド掛部8は腕6の基端部6bの幅より

やや大きい寸法の直径を有する円板形をしたフランジ8aと、該フランジ8aと腕6との間に位置した短い軸8bとから成り、該軸8bはドラム型をしている。従って、フランジ8aと腕6との間に円環状の溝8cが形成される。そして、バンド掛部8の軸心は着座部5の略中央部を通っている。

【0020】弾性バンド3は、所謂リングから成る。釣り用掛け具1は以上のように構成されている。

【0021】釣り用掛け具1の竿4への装着は、例えば次の手順で行う。まず、本体2を竿4の外表面の所望の位置（一般的には竿の把持部に比較的近い位置である）に、次のいずれかの姿勢で載置する。その姿勢とは、図1から図3及び図7に示すように着座部5の長手方向が竿4の軸と平行な向きで且つ着座部5の厚み方向における一方の面5a（掛け部7から遠い方の面）全体が竿4に接した姿勢（以下「起立姿勢」と言う。この姿勢では掛け部7が竿4から離間している。）、又は、図5、図6及び図8に示すように伏せた姿勢、即ち、着座部5の厚み方向における他方の面5bの後端部（掛け部7から遠い方の端部）と掛け部7とが竿4に接した姿勢（以下「倒伏姿勢」と言う。）である。

【0022】この状態から、本体2の一方のバンド掛部8の溝8cに弾性バンド3を掛け、次いで、該弾性バンド3の上記一方のバンド掛部8に掛けられた部位と反対の部位を摘んで引張りながら、そこを別のバンド掛部8の溝8cに掛ける。

【0023】尚、本体2を竿4に載せるときの前後方向の向きは、後述する魚信検知器として使用する場合等特別な使用目的で装着する場合を除き、起立姿勢にあっては掛け部7が竿先側を向く向きとし、倒伏姿勢にあっては掛け部7が竿尻側を向く向きとする。

【0024】これにより、本体2が弾性バンド3の弾発力によって竿4に圧着される。従って、本体2の起立姿勢又は倒伏姿勢は、これに強い押圧力を加えられない限り安定に保持される。即ち、前記したようにバンド掛部8の軸心は着座部5の略中央部を通っているため、本体2が起立姿勢であるときは着座部5の厚み方向における一方の面5a全体が略均等な圧力で竿4に圧着されることでその姿勢が保持され、本体2が倒伏姿勢であるときは着座部5の厚み方向における他方の面5bの後端と掛け部7との間にバンド掛部8の軸心が位置するために、上記後端と掛け部7とがいずれも竿4に圧着されることでその姿勢が安定に保持されるからである。

【0025】そして、弾性バンド3のバンド掛部8に掛けられた状態は該バンド掛部8の溝8cに略隙間無く収まった状態になるので、意図的に弾性バンド3を外そうとしない限り、弾性バンド3が外れてしまうことは無い。尚、本体2を取り外すときは、弾性バンド3をいずれか一方のバンド掛部8から外すだけで良い。

【0026】本体2の上記2つの姿勢は竿4に装着した

5

ままでの状態で選択的に変更することができる。即ち、本体2が起立姿勢にある状態から腕6を略竿尻側へ向けて押圧すると、本体2は、弾性バンド3による引張力に抗しながら、着座部5の反掛け部7側の端部を回動支点として回動され、そして、図4に示す中立位置を過ぎたところからは竿尻側への押圧を解除しても弾性バンド3の引張力によって自動的に倒伏姿勢になる。また、これとは反対に、本体2が倒伏姿勢にある状態から腕6の先端部6aを竿先側上方へ向けて押圧すると、本体2は、弾性バンド3による引張力に抗しながら、着座部5の反掛け部7側端部を回動支点として回動され、そして、図4に示す中立位置を過ぎたところからは竿先側への押圧を解除しても弾性バンド3の引張力によって自動的に起立姿勢になる。

【0027】また、釣り用掛け具1は弾性バンド3によって竿4に取り付けられているため、竿4の軸方向へ向けてやや強く押圧してやれば、同方向での位置を任意に移動することができる。特に、この実施の形態に示す釣り用掛け具1にあっては、弾性バンド3としてリングを用いているので、弾性バンド3自体が転がり易いために本体2を比較的容易に移動させることができ、それによって、弾性バンド3は竿4に略線接触の状態では接触するので、竿4が濡れた場合でも容易にはスリップしないために、選択した位置を安定に保持することができる。

【0028】このような釣り用掛け具1は次のように多様な使い方ができる。図3は一般的な針掛けとしての使用例を示す。これは、本体2を起立姿勢とした状態で、掛け部7に仕掛けの針9を掛ける使い方である。特に、この起立姿勢では掛け部7と竿4との間の間隔が比較的大きいために、ある程度大きなルアー10の針9を掛けてもルアー10が安定に保持され、また、針掛け作業を無理なく容易に行うことができる。勿論、この姿勢の状態では、ルアーでない通常の針や毛針等を掛けることもできる。尚、この場合、仕掛けのラインの長さに応じて釣り用掛け具1の竿4上の位置を移動してやれば、ラインに弛みが無いようにすることができる。

【0029】そして、釣り用掛け具1を使用しないときは、本体2を倒伏姿勢にしておけば良い。即ち、この姿勢では起立姿勢の状態より多少背が低くなると共にラインが絡みにくい又は絡んでも容易に解除される姿勢となるため、ライン絡みのトラブルをかなり防止することができ、不用意に傷つけてしまうことを予防することもできる。

【0030】また、本体2を倒伏姿勢にした状態で針を掛けることもでき、このような使用の各別の例を図5及び図6に示す。図5は比較的大きな針11を掛ける場合を示すもので、倒伏姿勢になっている状態の本体2の腕6に針11を掛ける。このような使い方の利点の一つは、竿4を傷つけることを防止できることにある。即ち、本体2を起立姿勢にした状態で掛け部7に大きな針

6

11を掛けると、その針先が竿4の表面に当たって竿4を傷つける恐れがあるのに対して、図5に示す使い方によれば、そのような危惧は殆ど無いからである。

【0031】図6はワーム形のルアー12を通した状態の針13を掛ける場合の使用例を示す。この場合は、例えば、本体2が起立姿勢になっている状態で、腕6を、針13とルアー12とで形成されているループの中を通した後、本体2を倒伏姿勢にする。従って、ルアー12を針13の先から外さなくても、結果的には図5に示す針11の掛け方、即ち、針先から通すのと同じ掛け方を実現することができる。

【0032】図7は釣り用掛け具1をライン掛けとして使用する例を示すものである。この場合は、本体2の腕6又はフランジ8aと弾性バンド3との間にライン14を差し込むだけで良い。これだけのことで、ライン14が止められるからである。従って、釣場の状況を見てからライン14に針を結ぶ場合や、仕掛けのラインが長いために本体2を移動してもラインに弛みが残ってしまうような場合は、同図に示すようにライン14を掛けておけば良い。

【0033】図8は釣り用掛け具1を魚信検知器として使用する例を示すものである。魚信検知器として使用する場合は、本体2を倒伏姿勢とした状態で、リールから引き出したライン15の一部を掛け部7と竿4との間に挟む。従って、この状態から仕掛けに魚が掛かってライン15に強い張力が加えられると、掛け部7に抑えられていたライン15が掛け部7と竿4との間から外れるので、この動きを見ることにより、あるいは、ライン15が外れた瞬間に掛け部7が竿4に当たるときの音を聴くことによって、魚信を認識できる。尚、このような使い方をするときには、本体2を竿4に装着するときの向きを、倒伏姿勢で掛け部7が竿先側を向く向きにしておくことと良い。

【0034】図9は本発明釣り用掛け具1の第2の実施の形態1Aを示すものである。尚、第2の実施の形態に示す釣り用掛け具1Aが前記第1の実施の形態に示した釣り用掛け具1と比較して相違する点は、腕の形状のみである。従って、説明は上記相違点についてだけ行い、その余の部分については、図面の各部に前記釣り用掛け具1における同様の部位に付した符号と同じ符号を付することにより説明を省略する。このような符号の使い方とその意味は後述する第3から第5の実施の形態においても同様とする。

【0035】同図において、16は本体2の腕を示す。この腕16は側方から見た形状が略L字状をしている。この釣り用掛け具1の竿に対する装着態様、竿上での前後移動及び姿勢の選択的変更と、様々な使い方は、前記釣り用掛け具1について説明したものと同様である。この釣り用掛け具1を倒伏姿勢とした状態では、腕16と竿との間の空間が大きく取れるため、より大きな針を掛

10

20

30

40

50

7

けたり、前記したワーム形ルアー12付の仕掛けの針を掛けるのに利点がある。

【0036】図10は本発明釣り用掛け具の第3の実施の形態1Bを示すものである。この図に示す釣り用掛け具1Bが前記第2の実施の形態に示した釣り用掛け具1Aと比較して相違する点は、着座部の形状のみである。17は前側の着座部を、18は後側の着座部を示し、これら着座部17、18は掛け部7と相似の形状を為す。そして、バンド掛部8の軸心は上記2つの着座部17、18の間を通過している。この釣り用掛け具1Bの竿に対する装着態様、竿上での前後移動及び姿勢の選択的変更と、様々な使い方は、前記釣り用掛け具1について説明したものと同様である。

【0037】従って、着座部17と18が竿の外表面に着座した状態のとき本体2が起立姿勢に保持され、後側の着座部18と掛け部7とが竿の外表面に着座した状態のとき本体2の倒伏姿勢が保持され、これら姿勢の選択的変更は後側の着座部18を回動支点として行われる。この釣り用掛け具1Bにおいては、着座部の肉が必要最小限の量で済むため、その分、重量と製造原価を小さく抑えることができる。

【0038】図11及び図12は本発明釣り用掛け具の第4の実施の形態1Cを示すものである。この図に示す釣り用掛け具1Cが前記第1の実施の形態に示した釣り用掛け具1と比較して大きく相違する点は、腕の形状のみである。19は腕を示し、腕19は略直角三角形の平板状をしている。そして、腕19の略直角な角を挟んだ2辺の一方19aに沿うところに着座部5が位置している。尚、上記腕19の形状の他に、前記釣り用掛け具1と比較して相違する点は、着座部5の厚みが薄くなっていることと、掛け部7が円柱状をしていることであるが、このような形状の違いはあっても基本的な機能においては殆ど変わらない。しかし、腕19をこのような形状にすることによって、腕19の強度を高めることができる。

【0039】この釣り用掛け具1Cの竿に対する装着態様、竿上での前後移動及び姿勢の選択的変更は前記釣り用掛け具1について説明したものと同様である。従って、着座部5の一方の面5a全体が竿の外表面に着座した状態のとき本体2の起立姿勢が保持され、図11に示すように着座部5の後端と掛け部7とが竿の外表面に着座した状態のとき本体2の倒伏姿勢が保持され、これら姿勢の選択的変更は着座部5の後端を回動支点として行われる。また、使い方については、倒伏姿勢で腕19に針等を掛けることができないことを除いて、前記釣り用掛け具1について説明したのと殆ど同様である。

【0040】図13は本発明釣り用掛け具の第5の実施の形態1Dを示すものである。この図に示す釣り用掛け具1Dが前記第1の実施の形態に示した釣り用掛け具1と比較して相違する点は、本体2のバンド掛部をその余

8

の部分とは別体に形成して、これらを回動自在に結合した点のみである。

【0041】20は本体2の主部を示し、主部20は着座部5と腕6及び掛け部7とが一体に形成されて成り、着座部5の略中央部に左右方向へ貫通した孔21が形成されている。22は前記バンド掛部8と同じ外形を有したバンド掛部を示し、反フランジ8a側の端面に開口した穴23が形成されている。24は金属製の軸であり、丸棒状をしている。そして、この軸24は主部20に形成されている孔21を軸回り方向へ回動自在に挿通されると共に、その両端部がバンド掛部22の穴23に各別に圧入される。これにより、主部20とバンド掛部22とが回動自在に結合される。この釣り用掛け具1Dの竿4に対する装着態様、竿4上での前後移動、姿勢の選択的変更及び使い方については、前記釣り用掛け具1について説明したものと全く同様である。

【0042】この釣り用掛け具1Dにおいてはバンド掛部22がその余の部分と回動自在に結合されているので、本体2の姿勢を変更する際に、バンド掛部22と弾性バンドとの間で摺動が生じることは殆ど無く、従って、姿勢の変更を円滑に行わせることができる。

【0043】図14から図16は前記弾性バンド3の各別の変形例をそれぞれに示すものである。図14に示す弾性バンド25は、横断面が円形又は楕円形をした紐状の中間部26と、該中間部26の両端に位置したループ部27とがゴムやエラストマー等の弾性材料によって一体に形成されて成るもので、ループ部27をバンド掛部8の溝8cに掛けるようにする。尚、中間部26の横断面形状が半円形を為すようにすることも考えられる。

【0044】図15に示す弾性バンド28は、基本的に細幅な平板状をしたもので、弾性材料から成り、その両端部に孔29が形成されている。上記孔29にバンド掛部8の軸8bを通す。

【0045】図16に示す弾性バンド30は、基本的に図15に示すものと同様であるが、中間部へ行くに従って幅が広がるようにされ、その両面に多数の微小な溝31、31、…が形成されている。従って、竿との間の摩擦を大きくすることができるため、前記本体2の取付け状態をより安定に保持することができる。

【0046】以上、本発明の各実施の形態について詳述してきたが、具体的な構成がこれら実施の形態に示したものに限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における設計の変更などがあっても本発明に含まれる。

【0047】

【発明の効果】以上に記載したところから明らかなように、本発明釣り用掛け具においては、本体の釣竿への装着は弾性バンドを竿に反本体側から巻きつけて両端部を本体のバンド掛部に掛けるだけで完了するので、竿に対する装着及び取外しを極めて容易に行うことができ、そ

れでいて、釣竿に装着した状態は弾性バンドの弾発力によって安定に保持される。しかも、釣竿への装着が上記したように行われるため、竿上で前後方向へ移動することができ、従って、掛け部に針を掛けたりする際、仕掛けの長さに応じて位置を調節することでラインの弛みを解消することができる。

【0048】請求項2に記載した本発明釣り用掛け具によれば、竿に装着したままの状態では本体の姿勢を選択的に変更することができるので、使用しないときは本体を倒伏姿勢とすることにより糸絡みをかなり防止することができ、本体を起立姿勢にした状態では掛け部に、本体を倒伏姿勢にした状態では腕に、それぞれ針等を掛けることができるため、用途や掛け方の態様を大幅に拡大することができる。

【0049】請求項3に記載した本発明釣り用掛け具にあつては、本体のバンド掛部が溝を有し、該溝に弾性バンドが略隙間無く収まるようにしたので、この溝の壁と弾性バンドとの間にラインを挟んで止めておくことができる。

【0050】請求項4に記載した本発明釣り用掛け具にあつては、本体のバンド掛部とその余の部分とを別体形成し、これらバンド掛部とその余の部分とを軸により回動自在に結合したので、本体を回動させる際、弾性バンドとの間に摩擦抵抗が殆ど生じないため、姿勢の変更を滑らかに行うことができる。

【0051】請求項5に記載した本発明釣り用掛け具にあつては、汎用部品であるリングを弾性バンドとして用いるようにしたので、その分、製造原価が安く済み、また、釣竿とは略線接触の状態では接触するために、濡れた場合でも滑りにくいという効果を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明釣り用掛け具の第1の実施の形態を示すもので、起立姿勢とした状態の斜視図である。

【図2】図1に示す釣り用掛け具を、起立姿勢とした状態で、一部切断して示す正面図である。

【図3】図1に示す釣り用掛け具を起立姿勢とした状態で針掛として用いる場合の一例を示す垂直断面図である。

【図4】図1に示す釣り用掛け具が起立姿勢と倒伏姿勢の中間の姿勢になっている状態を示す垂直断面図である。

【図5】図1に示す釣り用掛け具を倒伏姿勢とした状態での針掛け態様の一例を示す垂直断面図である。

【図6】図1に示す釣り用掛け具を倒伏姿勢とした状態での針掛け態様の別の例を示す斜視図である。

【図7】図1に示す釣り用掛け具をライン掛けとして使用する例を示す側面図である。

【図8】図1に示す釣り用掛け具を魚信検知器として使用する例を示す垂直断面図である。

【図9】本発明釣り用掛け具の第2の実施の形態を示す垂直断面図である。

【図10】本発明釣り用掛け具の第3の実施の形態を示す垂直断面図である。

【図11】本発明釣り用掛け具の第4の実施の形態を示す垂直断面図である。

【図12】図11に示す釣り用掛け具を竿上で倒伏姿勢にした状態の垂直断面図である。

【図13】本発明釣り用掛け具の第5の実施の形態を一部切り欠いて示す正面図である。

【図14】本発明釣り用掛け具の弾性バンドの変形例を示す平面図である。

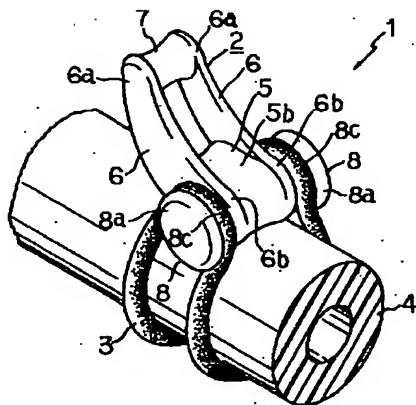
【図15】本発明釣り用掛け具の弾性バンドの別の変形例を示す斜視図である。

【図16】本発明釣り用掛け具の弾性バンドの更に別の変形例を示す斜視図である。

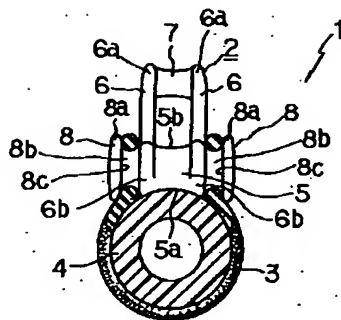
【符号の説明】

1	釣り用掛け具
2	本体
3	弾性バンド（リング）
4	竿
5	着座部
6	腕
6a	（腕の）先端部
7	掛け部
8	バンド掛部
8c	溝
1A	釣り用掛け具
16	腕
1B	釣り用掛け具
17	着座部
18	着座部
1C	釣り用掛け具
19	腕
1D	釣り用掛け具
20	（本体の）その余の部分
22	バンド掛部
24	軸
25	弾性バンド
28	弾性バンド
30	弾性バンド

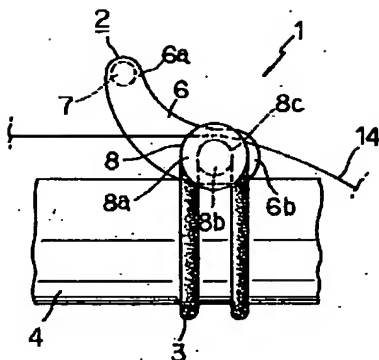
【図1】



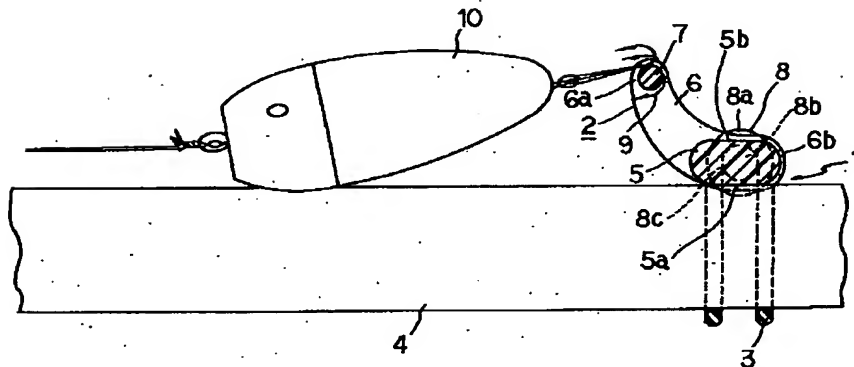
【図2】



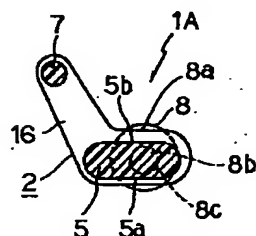
【図7】



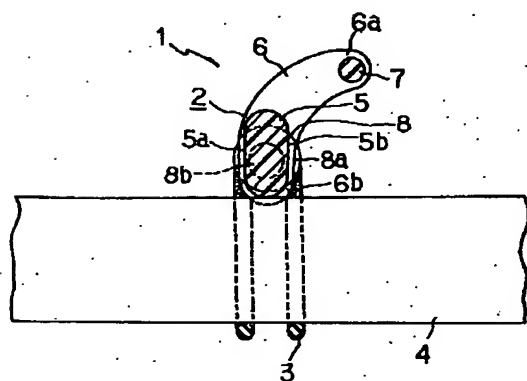
【図3】



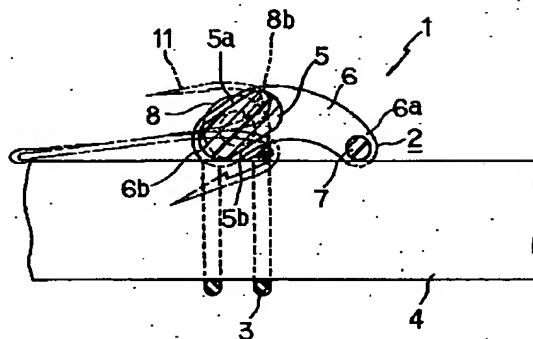
【図9】



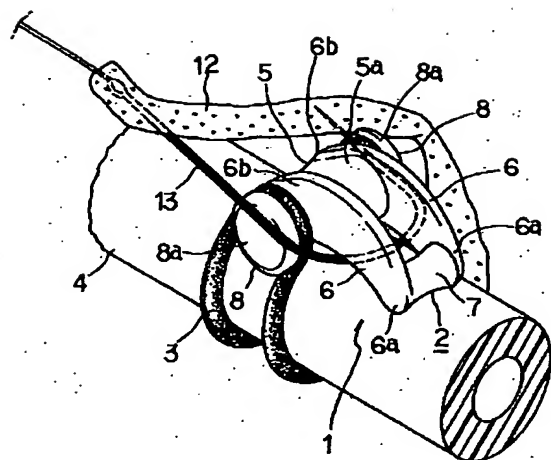
【図4】



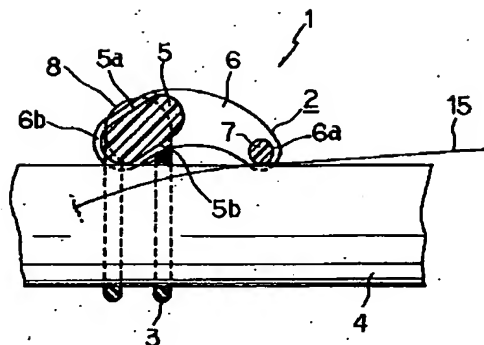
【図5】



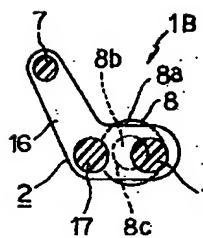
【図6】



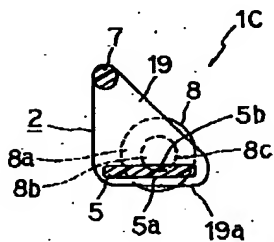
【図8】



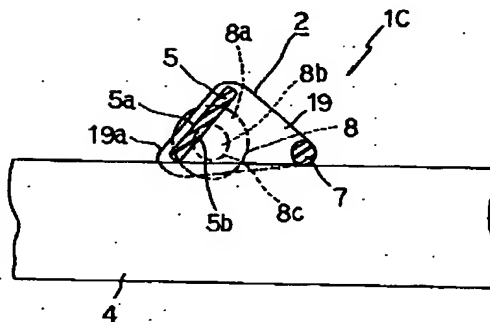
【図10】



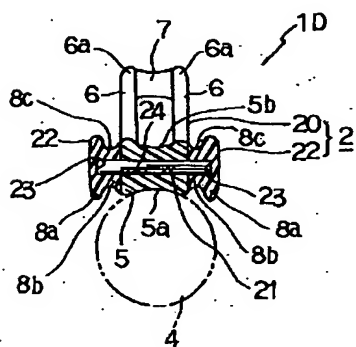
【図11】



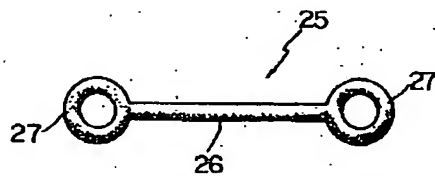
【図12】



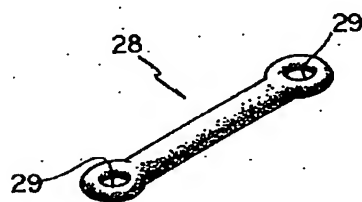
【図13】



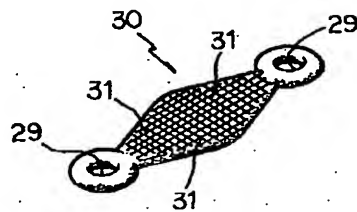
【図14】



【図15】



【図16】



DERWENT-ACC-NO:

DERWENT-WEEK: 200111

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Hook tool e.g. needle retainer mounted to
fishing rod -
noncontacting side of has O=ring which is wrapped around
section provided pole while clamped to each strap hanging
tool body to to right and left sides of arm, to maintain
fishing rod

PATENT-ASSIGNEE: FUJI KOGYO KK[FUJA]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0195157 (June 20, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 10004828 A	January 13, 1998	N/A
008 A01K 087/00		
KR 230943 B1	November 15, 1999	N/A
000 A01K 097/00		
TW 338705 A	August 21, 1998	N/A
000 A01K 087/00		
KR 98000046 A	March 30, 1998	N/A
000 A01K 097/00		
JP 3053771 B2	June 19, 2000	N/A
008 A01K 087/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP 10004828A	N/A	1996JP-0195157
June 20, 1996		
KR 230943B1	N/A	1997KR-0024053
June 11, 1997		
TW 338705A	N/A	1997TW-0106867
May 22, 1997		
KR 98000046A	N/A	1997KR-0024053
June 11, 1997		
JP 3053771B2	N/A	1996JP-0195157
June 20, 1996		
JP 3053771B2	Previous Publ.	JP 10004828
N/A		

INT-CL (IPC): A01K087/00, A01K091/053 , A01K097/00 ,
A01K097/10

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10004828A

BASIC-ABSTRACT:

The tool has a main body (2) that is turnably attached to outside surface of a pole (4). The tool main body consists of a hook section (7) and a strap hanging section (8) that is provided to the right and left sides of each base edge (6b) of an arm (6).

The arm of the tool protrudes beyond an attachment piece (5) that contacts the pole periphery. An O-ring (3) sets the tool body to the fishing rod while clamped to each strap hanging section and wrapped around non-contacting side of periphery of the pole.

ADVANTAGE - Enables easy detachment and setting from and to rod. Can be held to stabilised but movable or adjustable state to rod. Cancels loosening of fishing line by adjusting position of tool according to length of mechanism.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/16

TITLE-TERMS: HOOK TOOL NEEDLE RETAIN MOUNT FISH ROD O=RING WRAP SIDE
POLE CLAMP
STRAP HANG SECTION RIGHT LEFT SIDE ARM MAINTAIN TOOL BODY
FISH ROD

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1998-098401